

# 発達障害児早期支援体制整備及び 巡回支援専門員整備の取組について

宮城県保健福祉部障害福祉課



松島町児童館



1



## 宮城県発達障害者支援体制整備検討会の設置(平成27年～)

学識経験者, 障害福祉サービス事業所, 親の会, 発達障害者支援センター, 市町村, 医療, 保健, 福祉, 教育, 労働, 消費, 警察等の関係部局及び機関の職員等の31機関から成る。乳幼児期, 児童・学童期, 就労・成人期の3つのワーキンググループに分かれて議論。

<平成27年度>

### ① 発達障害者支援体制整備の現状と課題の整理

乳幼児期: 早期発見・早期支援, 診断, 療育, 関係者の資質の向上

児童・青年期: 教育現場での取組・課題, 地域との連携, サービス利用, 当事者及び親支援

就労・成人期: 就労支援, 社会適応支援, グレーゾーン, ひきこもり等への対応等

### ② 今後強化すべき支援や新たに取組が必要な支援の取りまとめ

検討回数: 2回

第1回: 平成27年11月27日(金)

第2回: 平成28年3月8日(火)

<平成28年度>

### ① 平成27年度の強化策に基づいて各年齢段階に応じた支援策の実施

→平成28年度発達障害児者支援開発事業に申請(乳幼児期の課題をベースに)

### ② 現状の検証, 更に必要な支援に関する検討

検討回数: 2回

第1回: 平成28年5月17日

第2回: 平成29年2月21日



## 本県の発達障害児(者)の支援体制の課題

### (1) 発達障害に係る共通課題

- ・発達相談ニーズの増加(特に発達障害疑いケース)。
- ・相談や療育に関わる人材の育成。
- ・身近な地域の支援拠点の整備(児童発達支援センター, 相談支援事業所, 障害児等療育支援事業等)
- ・支援者や支援機関の困り感をバックアップする体制の未整備。
- ・どの年齢段階でも得られる療育や学びの場の保障が未整備。
- ・発達障害を診断できる医療機関が少ない。

# 本県の発達障害児(者)の支援体制の課題

## (2) ライフステージごとの課題

年齢段階	支援内容	課題
乳幼児期 (0～6歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健康相談</li> <li>・乳幼児精神発達精密健康診査等</li> <li>・療育や育児支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が子どもの特徴に気づき、親の困りごとに寄り添う支援体制が身近な地域で未整備であること。</li> </ul>
学童・青年期 (7～18歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級教室，特別教育支援等</li> <li>・放課後の過ごし方</li> <li>・不登校，ひきこもり，心の悩み相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉と教育の連携（個別支援計画の目標共有）。</li> <li>・障害児支援サービス（放課後等デイサービス等）の質の向上。</li> <li>・発達障害者の二次障害への予防（非行，不登校等）</li> </ul>
就労・成人期 (18歳～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場意識の啓発</li> <li>・無業者心理カウンセリング</li> <li>・職業相談，職場体験等</li> <li>・職場従業員への理解促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労前支援と離職予防支援。</li> <li>・消費者被害の予防。</li> <li>・自己理解と周囲の本人理解の促進と企業理解の啓発。</li> <li>・発達障害者の二次障害への対応（自傷，他害，ひきこもり等）</li> </ul>

### 1 事業の概要

保育士等として従事している方々に、効果的な発達障害支援を行うための専門知識やスキルを保護者と協働しながら習得いただく仕組みづくりを行う

社会資源が限られる地域でも有効な仕組みづくりを検討

【モデル地域】  
松島町



代替保育士等を派遣(費用負担)



宮城県



早期療育による二次障害の予防と地域における発達障害の相談体制構築をめざす

### 2 事業実施スキーム



発達障害児者支援モデル事業

### 3 事業の“3本柱” (特徴等)

**健診ツールの導入支援**

幼児健診(1歳6か月)で使用するアセスメントシートに独自の健診ツールを導入して、発達の気になる子どもを「子育てひろば」へ促す

個別相談の場

**現任者スキルアップ研修の支援**

保育士・幼稚園教諭等で発達の気になる子どもの支援課題を子育て支援センターの「療育」を通じて検討する

のびっこクラブ

**ペアレントメンターの育成支援**

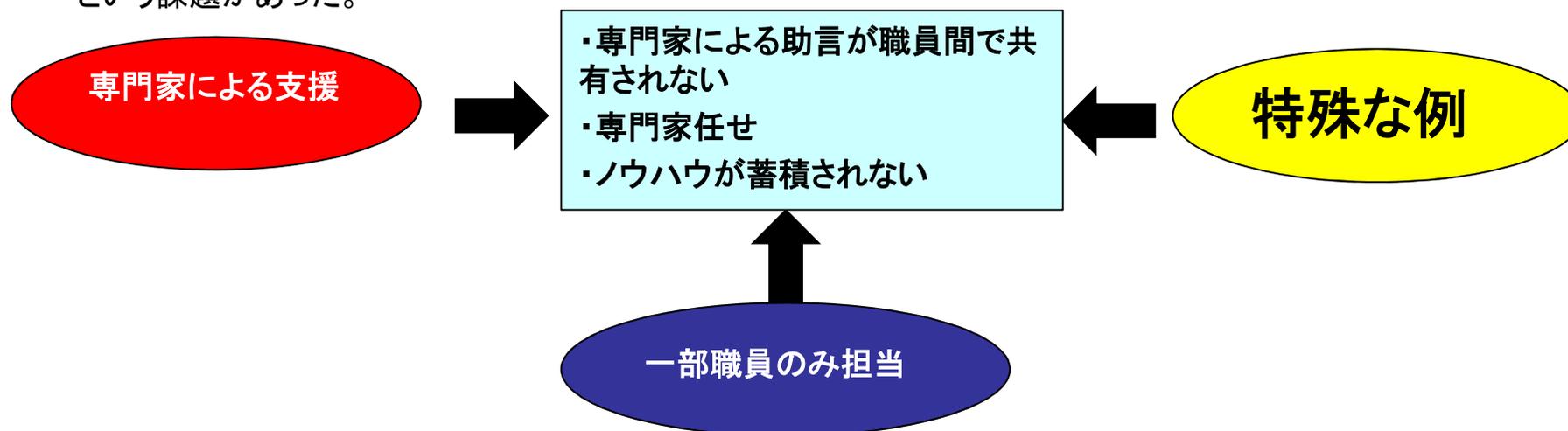
発達の気になる子どもを育てた経験のある「先輩保護者」が、子育てに悩む母親等のサポーターとなるために必要なスキルを研修で習得する

## 【モデル地区】

# 松島町の概要

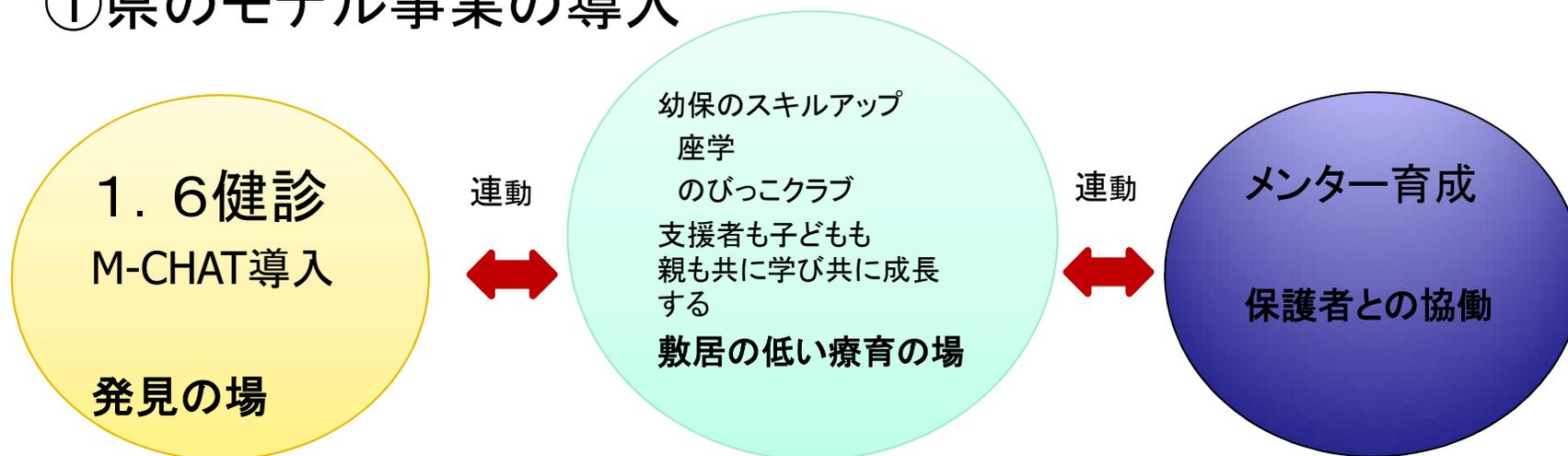
宮城県の沿岸地域中部に位置する町。松島湾によって太平洋に面する地域で、日本三景の一つ「松島」の観光拠点として広く知られている。

- 人口 14,939人(0歳～4歳 399人) (住民基本台帳 2015年1月1日現在)
- 公立幼稚園3幼稚園(定員160名) 公立保育所4園(定員269名) 子育て支援センター(児童館)1か所
- 平成13年～町独自事業(松島町巡回心理相談)として障害のある子どもや育児に困難がある子どもの成長・発達を支援するため、臨床心理士による親や保育士・幼稚園教諭の相談を行うなど、心理的問題や精神発達面に重点を置いた専門的な助言指導を実施し子どもの育ちを支援してきた。しかし、保育所・幼稚園では事例検討に留まり、担任のみが学んでも翌年担任が変わると指導が継続できずスキルが蓄積されないという課題があった。



# そこで...

## ①県のモデル事業の導入



## ②巡回相談支援の組み替え

～H27 保育所・幼稚園中心の  
巡回心理相談



H28～地域生活支援事業の  
巡回支援専門員整備事業

## 松島町巡回支援専門員整備事業(平成28年～)

### ○子育てひろば(毎月1回)

場所 児童館

- ・相談室の設置(臨床心理士, 保健師等)
- 保護者からの子どもの心理・身体・言葉・発達などに関する悩みや子育てについての相談に応じる
- 臨床心理士・言語聴覚士などの有資格者

### ○保育所等巡回(毎月1回)

場所 保育所・幼稚園

- ・巡回指導(午前:臨床心理士)
- 各保育所・各幼稚園などを専門員が巡回し, 気になる子どもへの関わり方や, 現場での支援の仕方について, 助言・指導を行う。
- ・事例検討(午後:臨床心理士)
- 午前中のケースを主に事例検討を行うことで, 関係機関の職員のスキルアップを図る。



## 事業内容

グレーゾーンにある子ども達に対して、**子育て支援センター(児童館)**を拠点とした早期支援体制を図る。具体的には、保育士、幼稚園教諭等の町内の施設に勤務する発達障害が疑われる児の担当職員が毎月定期的にフォローアップ教室に参加し、OJTによるアセスメントスキル、対応スキル、カウンセリングスキル等の研鑽を行う。支援方法について保護者とも共有し、早期療育を通じた**二次障害の予防**を図る。

→資源が限られた地域において、**専門職頼みでなく**、地域の支援者が支援に当たる仕組みの構築。

# 事業スケジュール

事業項目	参加者	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
現任者対象セミナー	(松島町) 保育士・幼稚園教諭 児童発達支援職員・ 保健師向け研修	① 6/23 18名	② 7/21 18名	③ 8/18 AM8名:AM7名 PM13名:PM12名	④ 9/7 AM8名 PM16名	⑤ 9/20 AM8名 PM16名						
	(松島町) フォローアップ教室 (のびっこクラブ) 3歳未満				① 9/30 AM6名 PM6名	② 10/14 AM5名 PM7名	③ 11/11 AM5名 PM5名	④ 12/9 AM10名 PM8名	⑤ 1/27			
	(松島町) フォローアップ教室 (のびっこクラブ) 3歳以上					① 10/20 AM6名 PM13名	② 11/17 AM7名 PM13名	③ 12/15 AM6名 PM7名	④ 1/19	⑤ 2/16		
健診	(県) 障害福祉課職員 子育て支援課職員 中央児童相談所職員 (松島町) 健康長寿課職員			① 9/12 6名	② 9/26 9名	③ 10/7 8名	④ 11/17 8名	⑤ 1歳6月 健診 12/6 16名	⑥ 1歳6月 健診 2/7	⑦ 2/28	⑧ 3/7	
メンター養成	ペアレントメンター向 け研修						① 11/1 22名 啓発 研修会		② 1/24 26名 養成 研修会 ①	③ 1/25 ペアレン ト・メン ター検討 会① 9名	④ 2/1 養成 研修会 ②	⑤ 2/9 ペアレン ト・メン ター検討 会②
委員会	企画・推進委員会			① 8/25 20名							② 3/23	
事務局	事業進行管理	県障害福祉課			委員会 運営						委員会 運営	

M-CHAT勉強会

アセスメント検討会(作成)

家族支援とペアレント・メンター研修会  
NPO法人日本ペアレント・メンター研究会

# 健診ツール(M-CHAT)の導入

## アセスメント・検討会

	日時	内容	参加者
第1回	平成28年9月12日(月) 午後1時～午後3時	1 モデル事業について 2 健診におけるアセスメントシート導入について 3 M-CHAT, 統制障害シートの検討	6名
第2回	平成28年9月26日(月) 午後3時30分～午後5時	1 健診シート案の検討 2 のびっこクラブにおける参加者アセスメントシートの検討 3 のびっこクラブにおける保護者アンケートシートの検討	9名
第3回	平成28年10月7日(金) 午後10時～正午	1. のびっこクラブにおけるアセスメントシート案の検討 2. その他	8名
	平成28年11月17日(木)	M-CHAT勉強会 国立精神神経医療研究センターの資料活用	8名
第4回	平成29年2月28日(火) 午後1時～午後3時	1. 健診におけるアセスメント結果の分析 2. のびっこクラブにおけるアセスメント結果の分析	
第5回	平成29年3月7日(火) 午後1時～午後3時	1. アセスメント結果のまとめ 2. その他	



**M-CHAT勉強会**  
松島町保健福祉センター

## 1歳6か月健診



# M-CHAT

- ・ASDスクリーニング(16～30ヵ月)を目的に開発
- ・23項目(重要10項目) 親回答
- ・健診場面での有用性検証

平成28年度第11回発達障害早期総合支援研修  
で神尾陽子先生より紹介



# M-CHATの結果

対象16名中 5名陽性(全体3以上1名, 重要1以上5名)

上記の中でフォローとなったのは1名

○M-CHATのチェック手順

- ①保健師の問診の前にあらかじめチェックする。
- ②M-CHATの問診票の下段に合計を記載(項目及び重要項目:例2/23・1/10)するとともに陽性、陰性について記載(記号化:(+), (-))する。
- ③重要項目との区別のため、重要項目には回答欄の余白に◎を付ける。
- ④未記入の場合は保護者に記入してもらう。
- ⑤記載がない, どちらとも言えない時は、フローを参考に具体的に例示して保護者に確認するが, それでも選べない時は, リスクの低い方に○を付ける(スクリーニング目的のため)。
- ⑥チェックした後に問診とする。
- ⑦問診で発達について気になった場合に再度M-CHATを確認する。



- ・健診の流れに影響することなく実施することができた
- ・問診の前にあらかじめ合計点を記載した方が良い
- ・使用感としては、基準が決まっているので活用がしやすい
- ・保護者の困り感の結果などから総合的に判断する必要がある

**判断の参考**

**安心感**



# 現任者スキルアップ研修の支援

座学 5回実施(平成28年6月～9月) 計77名

理解や行動の特徴	支援のヒント
感覚と知覚	無理をさせず尊重, 環境調整 (カームダウンエリア, ヘッドホーン, サングラス等)
認知	1対1対応の視覚支援(見て分かる, マッチングで分かる)
言語・コミュニケーション	快を感じられる対人交流(分かる, 伝わって便利, 楽しい等)
記憶	要点を紙に書いて伝える, 絵に描く, スケジュールを随時消し, 展望記憶の整理
注意	切り替え(見えなくなる, 箱に入れる), 選択(パーテーションで区切る, 見て欲しいものだけ出す)
実行機能	行動の計画, 点検, 修正を日頃から意識づけ, 計画を立てる習慣, 感情のコントロール

ステップ 1	困ったと感じた行動をビデオで見るように具体的に書き出してみよう。
ステップ 2	そのことを変えるには子どもや周りにとってどう必要(緊急性・将来性)かを考えてみよう。
ステップ 3	困ったと感じる行動を引き起こしている原因は何かを障害特徴から考えてみよう。
ステップ 4	子どもにわかるように教えるには, 障害特徴に合わせた工夫, さらに子ども一人ひとりの個性に合わせた工夫が大切。一人ひとりのスキルや特徴を知ろう。
ステップ 5	対応することに決めたら, 対象の子どものスキルアップ, やる気コントロール, 環境整備の3つの視点から支援を考えてみよう。
ステップ 6	困った行動だけにとらわれず, 身辺自立, コミュニケーションと社会性, 学習課題とお手伝い, 余暇など全体を将来まで見通す支援を基本におこう。
ステップ 7	一度でうまくいかないのは当たり前。試行錯誤で乗り切ろう。一人で頑張りすぎず, 支え合うチームを作ろう。

あなたがつくる支援プラン

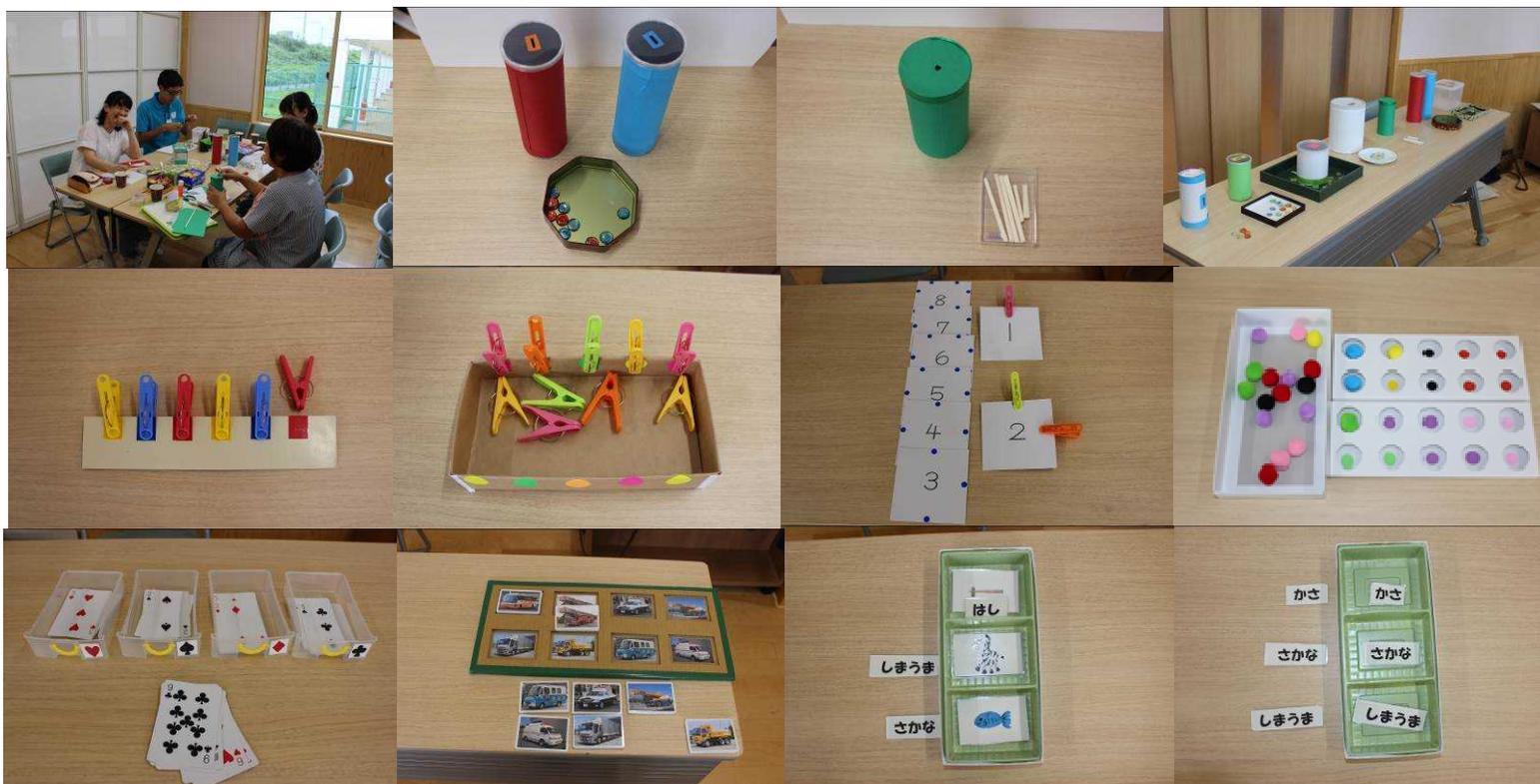
困った行動が教えてくれる自閉症スペクトラムの支援, 藤原加奈江, 診断と治療社, 2009を使用



# 現任者スキルアップ研修の支援

## 課題作り

3幼稚園，4保育所，児童館から職員が参加。



# のびっこクラブ

保育所グループ 5回 毎回3組参加 支援者4名, アドバイザー2名  
幼稚園グループ 5回 毎回3組参加 支援者4名, アドバイザー2名



## スケジュール

- ①集まり 遊び
- ②集団活動
- ③個別課題
- ④集まり 絵本
- ⑤さようなら



# のびっこクラブ



# アンケート結果

保護者 事業開始前

1 全く当てはまらない, 2 少し当てはまらない, 3 少し当てはまる, 4 かなりあてはまる」の4択

問	1	2	3	4
1 お子さんの発育・発達を理解している		1名	5名	
2 お子さんの行動について理解している			5名	1名
3 お子さんの興味・関心を理解している			3名	3名
4 お子さんへの関わり方のコツを理解している		2名	3名	1名
5 お子さんの成長を促すための関わり方を理解している		3名	3名	
6 子育てについての自信がある		5名	1名	



・子どもが楽しみと言ってくれたり、ニコニコしてくれると親としても元気になります。

・子どもの成長が見られてうれしいです。

・流れが分かってきているようで、家からのびっこクラブの写真を見せて伝えると行く意欲を見せていました。

・アドバイス頂いたことを参考にさせてもらって、定期的に聞く機会があると生活していても気持ちが楽になっています。

**成長の喜び**

**親の安心感**



# アンケート結果

支援者 事業開始前

1 全く当てはまらない, 2 少し当てはまらない, 3 少し当てはまる, 4 かなりあてはまる」の4択

問	1	2	3	4
1 発達支援に関する知識	2名	5名	1名	
2 発達支援に関するアセスメントスキル	2名	6名		
3 療育課題等における具体的な工夫	3名	5名		
4 1人1人に応じた支援への配慮(環境調整)	2名	4名	2名	
5 家族の思いへの理解		2名	6名	



- ・中心活動の工夫, 子ども達の興味やツボを理解して選ぶ活動を考えることの難しさや大切さを感じた。
- ・子ども達への声掛けの仕方やセカンドプランを持つことについてもっと学びたい。
- ・環境設定や自立課題の設定など子どもの姿を想像しながら進めていくことができた。
- ・職員の研修も兼ねながら月1回で支援を行う「のびっこクラブ」はとても意味合いが大きい。

気づき

自発的工夫

支援者魂の賦活



# ペアレント・メンターの育成支援

	日時	内容	参加者
第1回	平成28年11月1日（月） 午前10時30分～午後2時	ペアレント・メンター啓発研修	22名
第2回	平成29年1月24日（火） 午後1時～午後5時	ペアレント・メンター養成研修①	26名
第3回	平成29年2月1日（水） 午後10時～午後4時	ペアレント・メンター養成研修②	
第1回	平成29年1月25日（水） 午前10時～午前11時30分	ペアレント・メンター検討会 1. ペアレント・メンターについて 2. 宮城県における制度化に向けた検討	9名
第2回	平成29年2月9日（木） 午前10時～午前11時30分	ペアレント・メンター検討会 1. 他県の取組の紹介 2. 想定される課題と対応	



## まとめ

- ◆ 発達障害児支援は難しい、**専門家でないといけない**という意識があったが、子どもに分かりやすい声掛けや集中しやすい環境調整等の実践を通じて、保育士、幼稚園教諭、親などが**療育支援に自ら取り組むことの自信が付いた**。
- ◆ 早期発見(健診)→相談(子育てひろば)→療育(のびっこクラブ)→保育所・幼稚園での相談(巡回支援専門員)の流れができ、**利用しやすい子育て支援センター(児童館)を中心とした支援体制**ができつつある。
- ◆ 支援者(巡回支援専門員による事例検討、のびっこクラブ、アセスメント勉強会)や親(のびっこクラブ、ペアレント・メンター研修会)に学ぶ機会を提供したことで、**スキルアップ**が図られた。
- ◆ 組織を超えて現任者が集まり、支援について検討を重ね、実践することで、その知見を還元し、**町全体の支援スキルの平準化**を図る素地ができつつある。
- ◆ 安心して現任者が学ぶためには、**退職した保育士・幼稚園教諭がバックアップする仕組み**が有効であった。



今後も子どもや親に寄り添いながら，地道に地域で発達障害支援に取り組んでいきたいです

御清聴ありがとうございました

